

【大学等・一般の部】優秀賞

## 地域の絆を育む教育



別府市 前田 謙一

土曜日の夜、商店街では、子供たちがワイワイ、ガヤガヤと金魚すくいや輪投げをして楽しんでいる。その隣には、怪しげな古美術品を販売する骨董屋が大きな壺を並べ、大人たちも物珍しそうに眺めている。子供も大人も何かワクワクしながら、商店街のアーケードを歩いている。小学生の頃、家族で出かけた夏の恒例の行事、土曜夜市の風景だ。

その商店街も数十年経って久しぶりに歩いてみると人通りも少なく、自分の足音がコツコツと響き渡り、シャッターが閉まったままの店もちらほら目に付いた。

そんな商店街も、月に一度にぎやかさを取り戻す日がある。毎月最後の日曜日に開催される「南部自由市場」だ。中津駅近くの商店街のアーケード周辺で開催され、地域の人や店が、野菜、果物、パン、加工品など自慢の品物を持ち寄って出店する。販売だけではなく、地元で活動しているフォークソンググループの皆さんが、懐かしい音楽を奏で、買い物に来たお客さんが、つい立ち止まって手拍子を打ちながら聞き入っている。

ここ数年、中津東高校マーケティング部も南部自由市場に出店させてもらっている。販売する商品は、地元の特産品である魚のすり身を使った「ぎょろっけバーガー」。出店する前から、予約をいただき毎回売れ行きも好調だ。「おつかれさま」「がんばってね」と販売している生徒に地元の方々が温かい声をかけてくれる。その温かい声かけに励まされるように、「いらっしゃいませ」という生徒の売り声も大きくなる。中津東高校マーケティング部では、これまで地域を盛り上げようと商店街のイベントのお手伝いや、落語に挑戦して商店街で落語会を開くなど、地域の活性を目的とした活動を行ってきた。少しずつ地域の方々にも認知されるようになってきた。それらの活動でいつも感じるのは、地域の方々の高校生に対する期待や温かさである。地域の若者を地域で育てようとする想いが伝わってくる。商店街には、人と人との温かいつながりがある。

昨年8月、コロナ禍でダメージを受けた地域経済や社会を支援する目的で大分県が募集していた「新型コロナウイルス感染症対応緊急支援事業」を活用して、中津東高校マーケティング部が主催者となり「高校生夏フェス～あなたに元気を届けたい」と題して行事を開催した。開催のきっかけは、コロナ禍の影響で各種大会が中止となり、発表の場を失った近隣の高校の部活動に、日頃の成果を発表する場を提供したいという生徒たちの強い想いからだった。呼びかけに賛同してくれた近隣の高校をはじめ、地域で活動しているダンススクール、県内で活動しているプロのピアニストや落語家の皆さんも賛同していただき開催することができた。開催自体も危ぶまれたが、多くの地元の方々に参加していただき実施することができた。「元気を届けたい」という当初の目的も達成することができたのではないと思う。行動を起こせば多くの人が協力してくれる。この取り組みを通して、地域にはたくさんの応援団がいることを改めて実感することができた。

最近、子供たちが地域と触れ合う場面が少なくなっているように感じる。併せて、コロナ禍の影響で、人とのつながりがますます薄れつつある。こんな時だからこそ行動を起こしていきたい。自分たちが住む町やふるさとは、その想いを応援してくれる人や支えてくれる土壌がある。昨年度末、異動になり、現在、赴任した学校で、地域と連携した新たな活動ができないかと模索している。これからは生徒とともに地域に出かけ、自分の住む地域を活性化する取り組みを行っていきたい。その学びや体験は、将来自分の住む地域を愛する想いや絆になっていくと確信している。